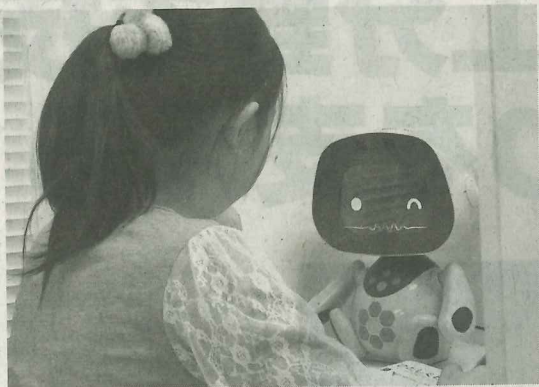


「先生ロボ」販路拡大

ソリユーションゲート 古河産業と提携

ソリユーションゲート（東京都荒川区、鈴木博文社長）は、小学生向けの学習指導ロボット「ユニボ先生」拡販のため、古河電気工業グループの商社である古河産業（東京都港区）と提携した。ユニボ先生の現在の販売は10台程度にとどまっている。新型コロナウイルス感染症防止や不登校対策として教育分野のデジタル変革（DX）が注目される中、2022年に100台以上の販売を目指す。



ソリユーションゲートは従業員が数人のため、ある学校へ営業に出向くと別の注文に対応できないといった課題があった。古河産業との販売提携で営業面の人手不足を解消。ソリユーションゲートは学習指導ロボットの肝区製の卓上ロボットがベース。対象の子どもの学習理解レベルに合わせて算数の問題を

「すごいね」、不正解だと「どうしてすごいのかなあ」などと声がけし、集中力の持続を促す。コロナ禍もあって多くの公立小学校では自分で勉強を進められる子と、言われないと勉強しない子の2極化が進行しているとされる。つまりいた子にいかんややる気を起こさせ、勉強に自信を付けさせるのが重要テーマになっている。ユニボ先生は、こうした子どもにやる気を起こさせる教材の作成や声かけのタイミングを重要視。個別指導法はネット授業の塾やタブレット端末教材では対応が困難で、ロボットに興味を持ちやすい小学生の年齢と合わせて差別化のポイントに据えていく。

ソリユーションゲートが拡販する学習指導ロボット。子どもに個別指導する

出題し、正解すると